

3015P 室屋金村 紀下 8P
 宇治谷上311P 紀下 8P
 3157P 144P 3.159P
 紀下 8P 宇治谷上311P 紀下 8P
 3157P 144P 3.159P
 紀下 8P 宇治谷上311P 紀下 8P
 3157P 144P 3.159P

第六十一章 武烈天皇

小泊瀬雅鷗鶴尊（後の武烈天皇）は、仁賢天

皇の七年に立つて皇太子となられた。長いて

天皇となつての意か、罪人を罰し、理非を

判定することをおまわした。法令に明るく、日

が暮れるまで政治を執られた。そして、世に

知られずにいる無実の罪は、かならず見抜い

て、それをはらされた。訴訟の審理は、まこ

とに当を得たものであつた。（武烈即位前紀

の冒頭部分）

まさしく、その通りたつたのであろう。

仁賢十一年八月八日 父仁賢天皇（優計

天皇）が崩御された。

こに、大臣の平群真鳥大臣は、専ら国政を

ほし、いままにいて、日本（東の国）に日本

国（の王）になろうと欲した。ことごとくに驕り

高ぶつて、全く臣下としての節度が無かつ

た。（武烈即位前紀）

尚、武烈天皇が即位される以前の出来事を

述べている。武烈即位前紀の記事中に、曰大

紀下 12 本 499

紀下12米45丁 (大伴金村連) ⑥

できな。よく水を安らかにできるのは、
 車であうう。下
 ーして、共（ト）に謀をめぐらしたのだっ
 た。
 「すなは、即ち、與（ト）に謀を定む」
 と記されている（武烈即位前紀）
 ■あるいは、皇太子と大伴金村連とは、年恰
 好か似て、（カ）確（ト）たのかも知れない。
 ・また、（カ）定（ト）かならないことながら、
 大伴金村連は、皇太子の影武者になった
 のかも知れない。✓
 と想像される。
 ・こうして、大伴金村連は、
 へ暫時、皇太子に替（カ）って、政務を執った
 ように思われる。
 *予め述べると、何と、武烈即位前紀の仁賢
 十一年十二月条に、
 「大伴金村連、賊を平（カ）げ定むる」と訖りて
 政を太子に反（カ）したてまつる。とある。

紀下14¹⁵所へ 日本 紀下14¹⁵所 2所 3所 紀下12^末 315 紀下12^末 3.161-3/2

井上(4)464 紀下12^末

紀下12^末 4所へ

王の称を奉りたいと奏上して、こう言つた
大伴金村連は、太子に尊号を奉りたい(大
武烈即位前紀の末尾参照)
十二月、大伴金村連は賊を平定し終つて、
政を太子に反したてまつた。(既述)
こうして、日辺に日本に平穏な日々が戻つた
真鳥大臣は、事が成功しないのを恨み、免
れ難い立場にあることを悟つた。計画は挫折
し、望みは絶えた。
なすところなく真鳥大臣は遂に殺された
十二月、大伴金村連は賊を平定し終つて、
政を太子に反したてまつた。(既述)
こうして、日辺に日本に平穏な日々が戻つた

是に、戦いが始まつた。
大伴大連は(大伴金村連の祖父)大
伴空屋大連のことであろうか、兵を率い
自ら将となり、大臣の家を囲んで火をかけ
焼き払つた。真鳥
人々は、大伴連および大伴大連の指揮に
雲のように靡き従つた。

是に、戦いが始まつた。
大伴大連は(大伴金村連の祖父)大
伴空屋大連のことであろうか、兵を率い
自ら将となり、大臣の家を囲んで火をかけ
焼き払つた。真鳥
人々は、大伴連および大伴大連の指揮に
雲のように靡き従つた。

紀下12¹⁵ 11所

紀下14 45行

紀下14 157行 紀下15 29 金銀のどりの口とある。ヤマトにわがはなはた
「朝鮮をさすか」という 紀下14 35行 3,162^P

紀下14 井上(4) 464^P
(19年 辛巳(4) 315^P)

紀下13^P
45行

紀下13 45行

トル

紀下13 45行

「億計天皇の子は、ただ太子だけがおろ
しません。そして、億計天皇のみもとにあつた
億兆(人民)が帰する所は、けつして、二つ
はございませぬ。また、天の靈威によつて、
賊を伐ち平らげることが出来ました。が、すぐ
れた計略と、勇敢な御判断は、以て、天皇の
「億計天皇の血統を受け継いでおりでの子はただ
太子だけ」がおられます。
そして日辺「日本」には、必ず君主がいなければ
ならない。日本はの君主に太子が
伏してお願ひ申し上げます。太子よ、お仰
きなされて、天地の神々にお答えになり、大
きな天命を宣はれ、日本に照り輝いて
りただきとう存じます。
どうか、銀郷(東国)日辺日本国をお受け下さ
い。
ここに太子は、有司に命じ、壇場を泊瀬列
城に設けて、天皇の位に即かれた。(紀)

*

かまやう
火急 380P
火のつくようになど
極めて急なこと

紀上528P 系譜
3077 1/4 末
3159P- 3/4

称讃 3092P
3159P 2/4 連
3647P 1/4

めまろ 目録
3163P

紀下14P 59

3076P
3077

3160-1/2
12斤 仁賢天皇

な お、恐らく、
仁賢天皇（億計天皇）
世に驚かされた西（九州）の
香皇后（仁賢天皇の皇女）
とにも、日夜急いで東（日
本）に駆け参じられ、この
事件に遭遇されたのであ
らう。第五十六章へ大伴
金村大連の項。第六の章
へ仁賢天皇崩の項にお
いて既述）

そ水にても、大伴金村連
のわがまゝに活
躍ぶりは、称讃にあた
いするものであった。
そこで継体天皇は、大
伴金村連の武勲を賞
めて、武烈天皇即位の
其の日に西の朝廷
の大連とされたの（武
烈即位の項参照）

前記の末尾参照）
一、祖父の大伴室屋大
連は、武烈天皇即位
後、今まで通り東の
朝廷の大連とされたこ
とであらうか。（第五
十六章へ大伴室屋大
連の項参照）

大伴金村大連の項参照）

*

H11.5.27
H31(2019)3.6(休)~3.6(3回)

記(黒) 264^P 6^分
紀下 16^P~17^P

3.164^P

記(黒) 264^P
紀下 14^P

F 3/6
3/6

*

書店、一四頁、注一〇参照)
また、
「武烈天皇の治世は、八年であつた」と記。紀共にいう。

武烈天皇は、即位の年の翌年(五二〇か)を元年とされた。(紀)
こうして武烈天皇は、長谷の列木の宮に坐して、天の下を治められた。(記)
なお、
長谷の列木は、現在の奈良県桜井市出雲の地であろう。
という。(「古事記」新潮社、二六四頁、注四。日本書紀(下)日本古典文学大系、岩波)

長谷寺の西南